

『活断層研究』執筆要領

(2008年2月3日発効)
(2008年7月4日改定)
(2009年5月29日改定)
(2014年12月13日改定)
(2015年12月5日改定)
(2016年10月10日改定)

1. 原稿の内容

投稿原稿は原則として学術誌等に未発表で、かつ著作権問題に抵触しないものとする。

学術誌等とは、学協会、教育・研究機関発行の論文誌、紀要を指します。学協会、教育・研究機関・委託元機関等が発行するニュースレター、事業報告的性格の強い報告書やホームページは学術誌等に該当しません。ただし、これらと全く同一の表現ではないことを求めます。

2. 原稿の作成

2.1 原稿作成に当たってはワードプロセッサを使用し、A4版用紙に印刷したもの（紙原稿）、またはA4版用紙に割り付けたPDFファイルを作成して下さい。書き方と体裁は以下の要領にしたがって下さい。

2.2 原稿は1ページあたり23行、1行あたり全角26字とし、査読意見が書き込めるように上下・右側の余白を大きくとってください。また、左側に行番号を、下部にページ番号を記入してください。（左マージン30mm、上マージン25mm、下マージン25mmで、右マージンは査読コメント記入用に80mmを目安とします）

2.3 原稿は、表題、本文（および付記等）、注、文献表の順に分けて書いて下さい。表題には、論文の題目（和文・英文）、著者名（和文・英文）、所属機関名（和文・英文）、キーワード（5つ前後、和文・英文）を記載してください。

2.4 論説・総説・短報・資料については、200～400語程度の英文要旨を本文の前に付けて下さい。

2.5 句読点は「。」（ピリオド）と「，」（コンマ）を使用してください。数値やアルファベットは半角文字を使用してください。カッコは全角でも半角でも構いませんが、半角カッコの場合には日本語との間に半角スペースを入れると読みやすくなります。

2.6 章、節、項のタイトルはすべてゴシック体としてください。章タイトルはその前に1、2…のように番号を付し、前後は1行空けてセンタリングしてください。節は1.1、1.2……、項は1)、2)……のようにタイトルの前に番号を表記してください。

2.7 特殊な字体（イタリック，ボールド，ギリシャ文字など）は明瞭に区別できるようにしてください。

2.8 人名や術語等の特別なものを除き，常用漢字および新かなづかいを使用してください。

2.9 年号は原則として西暦を使用し，元号が必要な場合は（ ）に入れて記してください。

【例】1990（平成2）年

2.10 年号等を除き，4ケタ以上の整理には3ケタ区切りのカンマ（，）を入れてください。

2.11 地名などの漢字で読み誤るおそれのあるものには，ふりがなをつけてください。

2.12 数量の単位は国際単位系（SI単位）を用いてください（例：m，kg，m/s，Hz，℃）。その他の略号については慣例に従ってください（例：¹⁴C，年BP，yrs BP，cal BP，Ma，ka，ca.，etc.）。

2.13 投稿規定 8.1 で定めたページ数を超過した場合は，1ページあたり15,000円を著者が負担することとします。ただし，筆頭著者が奥付年度の4月1日で39歳未満の場合にはページ超過代金を1ページあたり10,000円とします。超過ページ代金の納入先は活断層学会事務局です。

3. 注と文献の引用

3.1 注は，本文中の該当箇所の右肩に1)，2)のように番号を付して列記し，本文中の一連番号と対照できるようにして下さい。

3.2 文献は，本文中で引用する場合は，下記のようにあらわしてください。

【引用の例】

・引用文献の著者が1人の場合

【例】……である（松岡，1981）。

松岡（1981，p. 40）によれば……

……といわれる（松岡，1981，pp. 102-103）。

これらの研究（松岡，1981；Matsuyama，1963，1965a，b）によると……

・引用文献の著者が2人の場合

【例】松岡・松山（1981）は……

Sugita and Matsuyama（1982）は……

・引用文献の著者が3人以上の場合

【例】松岡ほか（1981）は……

Matsuyama et al.（1991）によると……

・文章等を直接引用する場合

【例】この点は「……である」（松岡，2001，p. 40）。

田中（2008）は，「……と言える」（p. 135）と述べている。

4. 文献表

- 4.1 文献表においては、著者名、発表西暦年、表題、雑誌名、巻、(号)、頁の順に下記の例のように書いてください。
- 4.2 著者名のアルファベット順、同一著者のものは年代順に並べて下さい。
- 4.3 著者（編者や訳者等を含む）が複数の場合も、省略せずに全著者名を記してください。
- 4.4 同一著者による複数の文献が連続する場合も、文献ごとに著者名を省略せずに記してください。
- 4.5 同一著者による同じ年に公表された異なる文献が複数引用される場合は、各文献の公表年に続けて、引用順に a, b, c ……と付記して区別してください。
- 4.6 雑誌名は省略しないでください。
- 4.7 巻号のある雑誌で、巻ごとに通しページになっている場合は号数を省略してください。巻号のある雑誌でも号ごとにページが変わる場合は号数も記してください。巻は太字で、号は平字で記してください。

【文献表の記載例】

①日本語単行本の場合

著者名、西暦出版年、「書名」、出版者名、総ページ数 p.

【例】活断層研究会編，1991，「新編日本の活断層-分布図と資料-」，東京大学出版会，437p.

②日本語編集書の一部の場合

著者名、西暦出版年、論文題目、編者名編「編集書名」、出版者名、掲載ページ。

【例】太田 裕，1994，断層と地震災害，島崎邦彦・松田時彦編「地震と断層」，東京大学出版会，210-233.

③日本語雑誌の一部の場合（巻のみで記載できる場合）

著者名、西暦刊行年、論文題目、雑誌名、巻数（太字体）、掲載ページ。

【例】渡辺満久・中村優太・鈴木康弘，2015，能登半島南西岸変動地形と地震性隆起，地理学評論，**88**，235-250.

④日本語雑誌の一部の場合（号のみの場合）

著者名、西暦刊行年、論文題目、雑誌名、号数（平字体）、掲載ページ。

【例】萩原幸男・糸田千鶴，2005，起震断層長のべき乗則分布モデル，活断層研究，25，1-7.

⑤日本語雑誌の一部の場合（巻の中で通し頁数が記されていない場合）

著者名、西暦刊行年、論文題目、雑誌名、巻数（太字体）（号数(平字体)），掲載ページ。

望月秋利・片岡昌裕・阪口 理・寺下雅裕，1986，暴露試験と乾湿繰り返し試験による頁岩の風化速度の検討，土質工学会論文報告集，**34**（4），109-119.

⑥外国語単行本の場合

著者名、西暦出版年、書名（斜字体）、出版者名、総ページ数 p.

【例】Yeats, R. S., Sieh, K., and Allen, C. R., 1997, *The Geology of Earthquakes*, Oxford University Press, 568p.

⑦外国語編集書の一部の場合

著者名, 西暦出版年, 論文題目, in 編集書名 (斜字体), 編者名 (editor), 出版者名, 掲載ページ.

【例】Obermeier, S. F., 1996, Using liquefaction-induced features for paleoseismic analysis, in *Paleoseismology*, J. P. McCalpin (editor), Academic Press, 331-396.

⑧外国語雑誌の一部の場合

著者名, 西暦刊行年, 論文題目, 雑誌名 (斜字体), 巻数 (太字体)・(号数(平字体)), 掲載ページ等.

【例】Furumura, T., and Kennett, B. L. N., 2001, Variations in regional phase propagation in the area around Japan, *Bulletin of the Seismological Society of America*, **91**, (4), 667-682.

【例】Okamura, Y., Ishiyama, T., and Yanagisawa, Y., 2007, Fault-related folds above the source fault of the 2004 mid-Niigata Prefecture earthquake, in a fold-and-thrust belt caused by basin inversion along the eastern margin of the Japan Sea, *Journal of Geophysical Research*, **112**, B03S08, doi: 10.1029/2006JB004320.

⑨ウェブサイトを引用する場合

著者名, 検索年, ページタイトル, URL (下線), 参照期日.

【例】地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2007, 「全国を概観した地震動予測地図」2007年版, http://www.jishin.go.jp/main/chousa/07_yosokuchizu/index.htm, 2008年1月31日参照.

⑩地図などを引用する場合

著者名, 西暦刊行年, 地図名等. 書誌情報

【例】岡田篤正・池田安隆・中田 高・千田 昇・宇根 寛, 2000, 1:25,000 都市圏活断層図「大分」, 国土地理院技術資料 D-1-No. 375.

5. 図, 表, 写真

5.1 図・表・写真は, 別紙 (A4 版) に書くか別紙に添付して下さい. それらのタイトル・説明文は, さらに別の用紙にまとめて書いて下さい. 写真は, 図として扱って下さい.

5.2 図・表・写真の刷り上がりは, 最大幅 7.5cm か 16.5cm (天地は, タイトル・説明を含み 24cm が最大) の大きさになります. 印刷原稿作成の過程で拡大・縮小の必要なくそのままの大きさで印刷原稿となるように, 最終原稿の印刷時の大きさのものでかつ鮮明なものをお送り下さい.

5.3 図にはそれぞれ第 1 図, 第 2 図, Fig. 1, Fig. 2 のように番号をつける. 表には, 表 1, 表 2, Table 1, Table 2 のように番号を付けて下さい.

5.4 日本語論文の場合でも日本語のほかにも英語キャプションを必ずつけてください. 表のキャプションは, 表題のみとし, 表の内容の説明文は, 表の下に入れてください.

5.5 本文右側の余白に図表の挿入希望位置を書き込んでください.

6. 投稿の方法

- 6.1 投稿は、電子原稿ファイルによる投稿を基本としますが、紙原稿による投稿も受け付けます。
- 6.2 紙原稿による投稿では、原稿とコピー3部（いずれもA4版）を提出してください。
- 6.3 原稿送付状（学会規定の用紙）に原稿の種類、著者名、論文名、連絡責任者、原稿の内容別枚数等を明記してください。
- 6.4 連絡責任者が電子メールアドレスを有する場合には、紙原稿による投稿であっても、原稿送付状を電子メールにて活断層学会事務局に別途連絡してください。
- 6.5 電子原稿ファイル（PDFファイル）による投稿は、原稿と投稿用紙の電子ファイルを担当編集委員宛の電子メールに添付して送信してください。この場合、ファイルを印刷したものの送付は不要です。
- 6.6 投稿段階での図・表・写真の電子ファイルの解像度は、査読に支障がない範囲において、最終原稿より粗い200 dpi程度のもので構いません。編集委員や査読者へ送りやすいよう、電子メールに添付できる程度のサイズ（数Mb以下）の1つのファイルにまとめてください。
- 6.7 最初の投稿に当たっては、原稿（文章・図表・図表キャプションなど）、送付状、投稿チェックシート（後述）を別々のファイルないし紙で活断層学会事務局（danso@seis.nagoya-u.ac.jpまたは〒464-8601名古屋市千種区不老町 名古屋大学環境総合館内）宛てお送りください。修正稿の投稿先は編集担当者の指示に従ってください。
- 6.8 印刷所に入稿する最終原稿は、原稿および図・表・写真の電子ファイルを提出してください。